

# 口 差 点

こうさてん

…つるぎを捨てよ じつじとく いくさ  
を捨てよ とことわに 平和をまもれ 地  
の極みまで 平和をまもれ 世々の未まで  
…ひろく歌われている「長崎の鐘」の他  
に、これは永井隆博士自身が書きのこし  
た、もう一つの長詩「長崎の鐘」です。

鐘」を朗読と音楽で、原爆忌に先立ち、初  
演のコンサートが行われます。長崎と松本  
をつないだ友情の共作版画「原子野の花」  
(永井博士の原画で加藤大道の彫り)が常  
設展示されている、ゆかりある会場から第  
一步の発信です。

70年前、世界で初めて原爆が投下された

昨年9月、「原子野の花」が展示された

広島と長崎。その惨状を見、衝撃を  
受けた作曲家・山田耕筰は「長崎の  
鐘」を歌劇

場所ですさんと冬のコンサートの打ち合わ  
せをしていたとき、幻となった長詩「長崎  
の鐘」に話が及び

か交響詩に  
しようかと決

## もう一つの「長崎の鐘」

ました。以来、構  
想を温めていた辻

意します。しかし、白血病の永井博  
士の他界と耕筰の病のため、ついに  
世に出ることはありませんでした。

さんは、5月、完成した曲を携えてお見え  
になりました。そのときのギターの響きが

戦後70年、ちょうど山田耕筰没後  
50年の今年、日本を代表する11弦ギ  
ターの作曲家、ギタリストの辻幹雄  
さんが作曲し、未完の長編叙事詩

「長崎の鐘」の産声となったのです。今  
後、この詩と音楽が多くの人々に響き伝わ  
り心がつながり、永井博士が訴え続けた、  
愛と人類平和の世界が築かれるように願っ  
てやみません。戦後70年を平和元年、出発  
の年にしたいものです。

「長崎の鐘」がよみがえります。  
150行にわたる叙事詩「長崎の

(松本市波田、古畑博子、66歳)